作文

群馬県コンクール 金賞

ミラクルスーパーライスボール

高崎市立南八幡小学校　２年　岡澤　奈々

　わたしは、おにぎりが大すきです。おにぎりの中でも、おばあちゃんが作ってくれるわかめごはんのおにぎりが、とっても大すきです。とっても、大きくて、やきゅうのボールぐらいの大きさですが、ちょうどよいしょっぱさで、ペロリとたべてしまいます。お母さんも、おなじように作ってくれるけど、このわかめおにぎりだけは、おばあちゃんのほうがとってもおいしいのです。わたしは、お兄ちゃんと、

「なんで、おばあちゃんのおにぎりは、おいしいのだろうね。」

　と、よく話をします。

　お母さんやお父さんに聞いてもわからなかったので、わたしはおばあちゃんに聞いてみました。おばあちゃんはとってもうれしそうに、

「また作ってあげるからね。」

　と言ってくれました。

　つかれている時、かなしい時でも、おばあちゃんが作ってくれるおにぎりをたべると元気がもりもりわいてきます。おこめ一つぶ一つぶがふっくらしていて、とってもおいしいおにぎりです。ごはんのたきかたも、とってもじょうずなのです。

　このあいだ、お兄ちゃんとケンカをしてしまいました。かなしくなったわたしは、ちかくにすんでいるおばあちゃんのいえに行きました。ないているわたしを見て、おばあちゃんが、いつものわかめおにぎりを出してくれました。

　一口たべたら、さっきまでかなしかった気もちがとってもらくになりました。そのあとは、お兄ちゃんとなかなおりすることができました。

　おばあちゃんのおにぎりは、元気の出るとってもふしぎなおにぎりです。

「また作ってねばあば。」